



Profile

廣江安彦氏

1943年生まれ、大府市若草町に在住。大府商工会議所で事務局長・専務理事として勤務。定年退職後は、放置され埋もれている地元大府の歴史文化に光を当て、独自の視点から調査し、著作と纏めるのを趣味として、これまで二十点余の独自色のある著書を執筆。郷土誌研究グループ「大府学研究会」、ご当地検定「おおぶふるさと検定」を立ち上げる。



鈴木バイオリンカルテット

鈴木バイオリン製造株式会社の大府市移転を記念して誕生した、大府ゆかりの弦楽カルテット。

2021年4月の鈴木バイオリン製造の本社オープニングセレモニーで初演を飾り、同8月の鈴木政吉氏の銅像除幕式典で祝賀演奏を披露。

クラシックの名曲から老若男女に親しまれやすい曲を演奏し、地域に根差した弦楽カルテットとして楽器演奏の面白さを広めていく。

◆メンバー

1st Violin 伊藤達哉(スズキ・メソード講師)
2nd Violin 小野田祐真(鈴木バイオリン製造 取締役)

Viola 野田豊子(スズキ・メソード講師)
Cello 廣岡直城(スズキ・メソード講師)



鈴木政吉氏と大府

日本のバイオリン王と呼ばれる鈴木政吉は、日本を代表する弦楽器メーカーである「鈴木バイオリン製造」の創業者である。

政吉は、尾張藩の下級武士の鈴木正治・たに夫婦の次男として、1859年に名古屋で生まれた。家業である三味線作りに従事しながら、音楽教師の道を目指していた1887年に、知人が購入した日本製バイオリンを目にして魅了された政吉は、音楽教師への道をやめ、1888年、家業を三味線作りからバイオリン製造へと変更した。

1890年3月に開催された第3回国勧業博覧会にバイオリンを出品、最高位である3等有功賞を受賞し、その後も次々と国内外の博覧会にバイオリンなどの製品を出品し、数々の賞を受賞した。「いいものを安く作って売ること」を会社の信条として、明治後半頃から、工場生産によるバイオリンの量産化に成功し、1914年、第一次世界大戦の影響で世界各国からの注文に対応して、輸出事業を拡大し、従業員数が1,000人を超えるほどの世界的楽器メーカーとなった。また、政吉製バイオリンは皇室がお買上げになったり、物理学者のアインシュタインにも贈呈され、アインシュタイン本人から政吉に礼状が送られた記録も残っている。

1930年、個人経営から株式会社へと事業形態を変えたが、世界恐慌の影響により経営が立ち行かず、1934年政吉は社長の座を退いた。会社の立て直しに奔走していた長男梅雄は、ドイツの楽器生産の村「マルクノイキルヘン」を再現しようと、知多郡大府町大字横根字名高山(現在の梶田町六丁目)に大府分工場を新設した。政吉は、同分工場隣接地に転居し、邸内に新設した「済韻研究所」でバイオリンの研究に励み、1944年满84歳の生涯を閉じた。

その後、戦争による経済統制、資材不足から楽器製造はままならなくなり、1944年の楽器製造全面廃止により、大府分工場は、三菱重工業名古屋航空機製作所に買収され、同工場の歴史は幕を閉じた。

愛三文化会館

〒474-0056 愛知県大府市明成町1丁目330番地

TEL:0562-48-6151

◆JR共和駅下車 西口から南西方向約800m 徒歩10分

◆国道23号線(名四国道)共和出口南方面、大府共和線共和町五丁目交差点南方面

◆国道155号線大府高校北交差点を北方面約2.7km先左側

鈴木政吉氏の銅像設置と
除幕式の様子もご覧いただけます。

愛三文化会館
Youtubeチャンネル

